地域円卓会議　in 石垣島

県内の島嶼地域と本島北部地域５カ所における若者の定住と働き方を考える

実施報告書

日　　時：　2016 年 3 月 10 日（木）16:00-18:30

場　　所：　石垣市立図書館

主　　催：　国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学

報告書作成

公益財団法人みらいファンド沖縄

【報告】若者の定住と働き方をテーマとした地域円卓会議

■日　　時：2016 年 3 月 10 日（木）16:00-18:30
■場　　所：石垣市立図書館
■着席者数：9 名（論点提供者、司会、ファシリテーター含む）
■来場者数：21 名（行政・大学・企業・NPO・市民）

■主　　催：国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学
■協　　力：公益財団法人みらいファンド沖縄、
NPO 法人まちなかわくわく研究所
■お問合せ：国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティ
キャンパス事業本部

論点提供　須藤 圭亮　氏（石垣市　企画部長）

県内の島嶼地域の若者の定住と働き場所について考える-石垣島編

本事業は琉球大学・名桜大学が起点となり、大学が地域課題の共有と解決に向けて参画するという取り組みの一つとして開催されます。会議は、県内 5 カ所（国頭村・大宜味村・久米島・石垣島・宮古島）で開催され、会議で議論された課題の、地域ごとの共通点と独自性を認識し、地域内で共有することで、その課題を地域全体で解決に導くチーム作りを目指します。さらに他の地域との情報共有は、地域間連携のきっかけになることも期待されており、地域同士の連携を大学が寄り添うことで課題解決の相乗効果を上げたいと考えています。

センターメンバー

須藤 圭亮
石垣市
企画部長

高倉 大
石垣市観光交流協会
事務局長

喜納 正雄
株式会社ハブクリエイト代表取締役社長

辺銀 愛理
(有)ペンギン食堂

本村 真
琉球大学
法学部教授

福里 淳
南山舎株式会社
記者

崎山 奈美
琉球大学
工学部 4 年

➢ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 石垣市の人口は増加。2015 年では約 48,000 人。
- 人口のピークは 2025 年の 49,000 人。2060 年には 44,000 人の予想。
- 一世帯あたりの人数が減少。2.3 人／世帯
- 年少人口（15 歳未満）と高齢者人口（高齢者人口）がほぼ同じくらい。全国と比べても特徴的。
- 人口構成では 10 代後半から 20 代前半にかけて少なくなっている。高校卒業後、島をでている。島に高等教育機関がない。
- 出生 600 人／年。合計特殊出生率（2013 年）は 2.06%（全国 1.43%、沖縄県 1.94%）。
- 有配偶率は 20～30 代が低くなる。未婚化、晩婚化。
- 離婚率が高い。
- 20 代の転出。
- 若者（15～34 歳）の U ターン率は徐々に低下しており近年は 64%程度と推測される。
- 年間所得は全国平均の約 2/3。
- 非正規雇用の割合 40%
- 農林業就業者の 4 割以上が 60 才以上。高齢化。
- ホテル、レンタカー、タクシー業界等の観光業は、人の募集をかけているが集まらない。全体的な人材不足。

評価の提供

- 石垣は子育て環境はとてもよい。自然、芸能、文化等子どもにとって刺激がある。
- ラー油や映画、アーティストなど石垣には人を引き付けるもの（フック）が多い。

事例の提供

- ペンギン食堂の職員の働き方。スーパーフレックス制（6～18 時の間いつ来ても帰ってもよい）。

- ヘルスツーリズム。島の人のやさしや、自然に対する感謝の気持ち等が観光客に伝わって移住につながることもある。
- 石垣の自然環境を活かした産業をつくろう。例えば、珊瑚の養殖や移植、サメの駆除等。観光プログラムにできないか。

視点の提供

- 人口減少が及ぼす影響として以下があげられる。
  - ➢ 医療、福祉、商業等の撤退。地域コミュニティの維持が困難。高齢化率の上昇。生産年齢人口の減少。税収減。子育て環境の低下。
- 社会増減ゼロ以上（転入≧転出）をイメージする。1）石垣で生活し続けられる状況をつくる、2）移住したい人を呼び込み定住につなげる、3）若者が就きたいと思える職場をいかにつくっていくか。この 3 本と取り組まないといけない。
- 「質」が確保された雇用をどうつくっていくか。
- 企業が求める人材を育成しマッチングしていくか。
- 雇用の質とは「やりがいが持てる」「ふさわしい処遇」「安定した働きやすい雇用形態」。
- 移住者から「思い描いていた生活と事実が違った」との声あった。所得の差等。
- 「観光業はきつい」等、若者にとってイメージがよくないのでは。
- 石垣に大学の学部を誘致してはどうか。卒業する学生を石垣で就職させることもできるのでは。
- 琉大にいる石垣出身の学生は、石垣に戻ってきたい人が多い。
- 不登校、引きこもり、発達障がいのある方等への中間的な就労支援が少ない。本島にあるような就労支援があると、就労の定着、就職が伸びてくるのでは。
- 移住者は、給料より休みのニーズが高い。
- 仕事の継続のつまずきがある。地元の方は、お酒がらみで、本土出身の方は、家族の介護などで辞めざる得ない場合がある。
- 移住者には 3 年の壁がある。地元の人が心を開いてくれるまでに 3 年くらいかかる。
- 定住に関して、地域のコミュニティが強い。入っていくのに勇気がいる。
- 島に戻ってくる方、移住者のニーズに近づけられるか。
- 石垣でしかできないことを、移住者への雇用の提供の中で生み出せるかどうか。
- 観光の高度化、波及効果を付けていく、やりがいをつけていく。

➢ 今後のアプローチの方向性（提案）

- **観光の高付加価値化**　自然環境を活かしたヘルスツーリズム等特別なプログラムの開発。
- **雇用の質向上とやりがい作り**　U ターン、移住者のニーズに合わせた労働環境や雇用形態の向上。
- **地域で支える体制つくり**　石垣で産み出された働き方のスタイルを地域で理解し支える仕組み作り。
- **学生の活用**　出身者は島に貢献することを望んでおりインターン等の活躍の場を提供。

■参加者によるサブセッション

「石垣島に、若者にどう関わってもらうか？」（原文のまま）

- 場所を選ばない働き方。
- 観光産業を活かす。
- 高専 etc...学べる場。　地元企業の育成。
- インターン（石垣市×琉大）（JTB？）旅行×就学。
- 観光分野、企画。
- 雇用条件の改善。
- やりたい事や習ってきた事が活かせる環境作り。
- 高等教育機関の誘致　内地出身者が石垣島にあるキャンパスで学び、就職できる環境。
- 地域的な事情。
- 沖縄と本土との壁。言葉（ニュアンス？）の違い。
- ヘルスツーリズム（人と人との肌の関わり合い）。
- 仕事をいかに続けていけるかが大事。そのために企業をどうサポートしていけるか。
- 最先端で高付加価値の仕事。IT（IOT）。
- 環境面の整備。
- 戻ってきて働ける仕事場の確保。
- 募集年齢の幅を広げる。

若者の定住と働き方をテーマとした地域円卓会議
参加者アンケート集計

◆概要

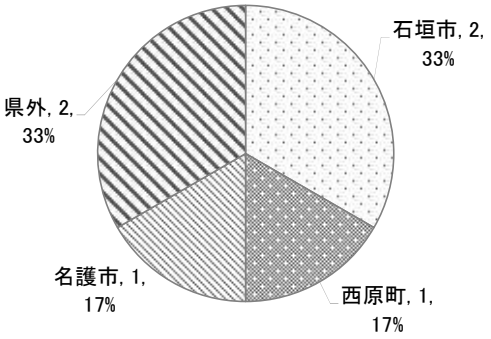
・日　時：2016 年 3 月 10 日(木)16 時～18 時半

・場　所：石垣市立図書館

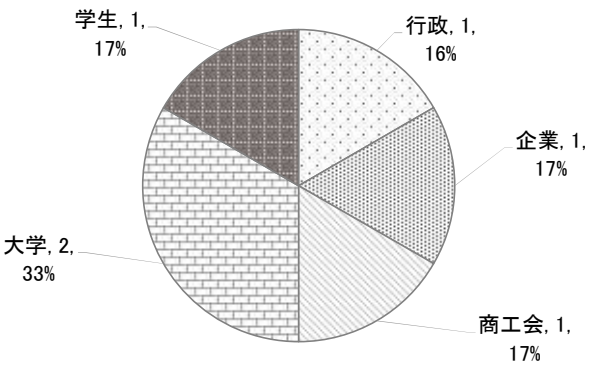
・着席者：9 名(司会、記録含む)

・参加者：21 名（アンケート回収 6 名、回収率 29%）

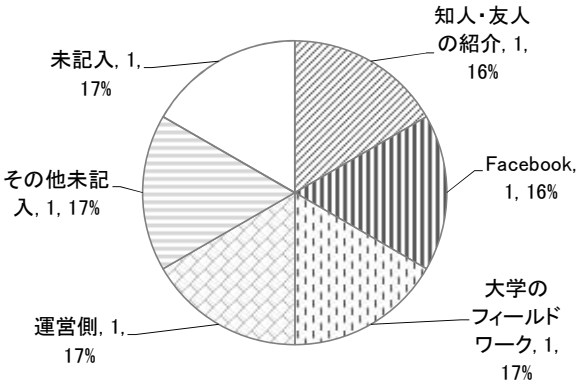
１．どちらから？



２．所属



３．円卓会議はどのように知ったか



４．満足度

平均：4.83（5 点中）

5.満足	4.概ね満足	3.ふつう	2.あまり満足してない	1.不満足
5 名	1 名	0 名	0 名	0 名

５．満足度の理由

・現状の問題が詳しく把握でき、問題解決のための多方面からの課題が浮かび上がってきたので、充実した会議になった。

・地元の事情が大変よくわかり、貴重な機会となった。

・単に人口を増やせという話ではなく、付加価値の高い仕事をすることについての話をしたこと。

・今までになく、充実した会議であった。

・もっと多くの方に参加して、聞いて欲しい。

６．印象に残ったこと

・石垣の自然を PR して、地元コミュニティと繋げること。

・スーパーフレックス制。

・企業支援。

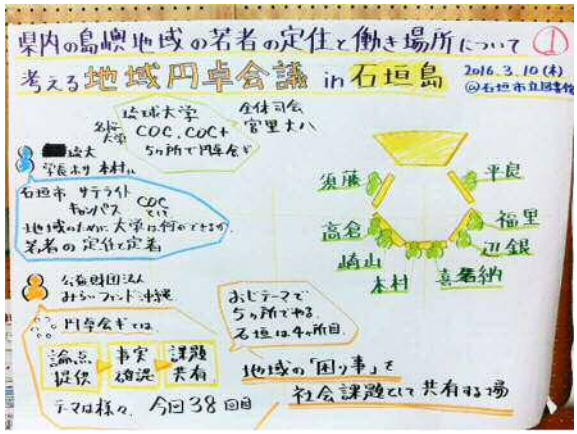
・観光プログラムの高付加価値化、労働生産性の向上。

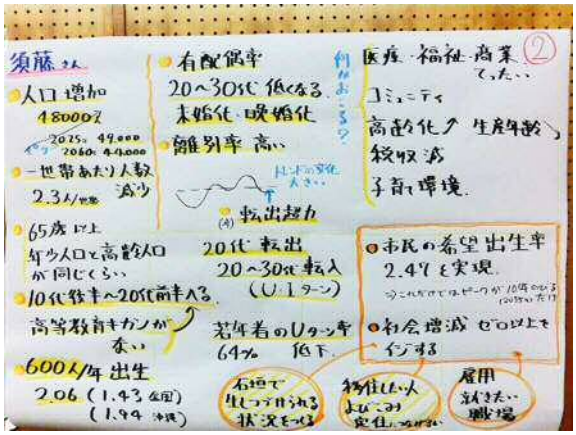
・「３年のカベ」という地元住民にとっての盲点があった。

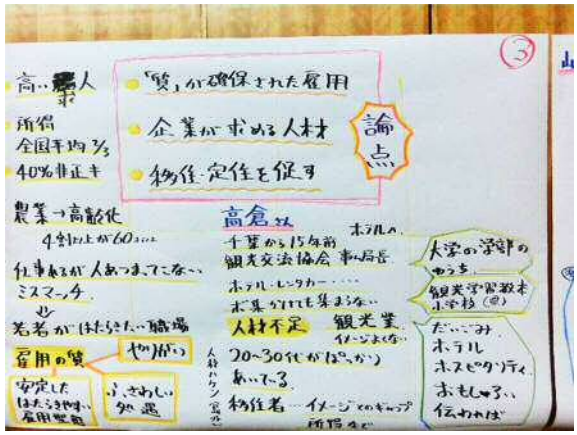
・ヘルスツーリズム。

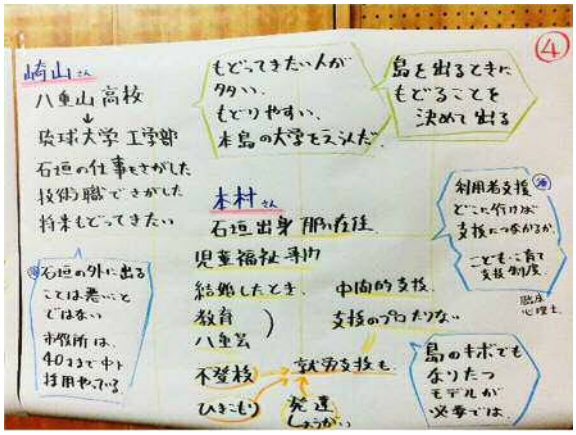
・業界団体による子育て支援。

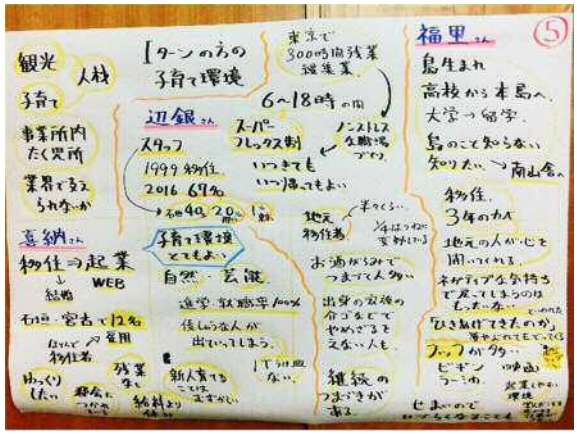
（写真）会場の様子


県内の島嶼地域の若者の定住と働き場所について
考える地域円卓会議 in 石垣島
①
2016.3.10(木)
琉球大学
COC, COC+
全体司会
宮里さん
須藤
平良
高倉
福里
辺銀
嶋山
本村
喜納
石垣市 サテライトキャンパス
地域の人が大学に何ができるか
若者の定住と定着
公益財団法人 みらいファンド沖縄
おなじテーマで5ヶ所でやる
石垣は4ヶ所目
円卓会議とは
論点提供
事実確認
課題共有
地域の「困り事」を社会課題として共有する場
テマは様々 今回38回目


②
須藤さん
人口増加
48000人
2015: 49,000
2060: 44,000
一世帯あたり人数減少
2.3人/世帯
65歳以上
年少人口と高齢人口が同じくらい
10代後半~20代前半へ
高等教育キガンが多い
600人/年 出生
2.06 (1.43 全国)
(1.94 沖縄)
有配偶率
20~30代 低くなる
未婚化・晩婚化
離別率 高い
何がおこる?
転出超過
20代 転出
20~30代 転入
(U・Iターン)
若年者のUターン率
64% 低下
市民の希望出生率
2.47を実現
社会増減 ゼロ以上をイジする
医療・福祉・商業
コミュニティ
高齢化↗ 生産年齢↘
税収減
子育て環境
石垣で生じる状況をつくる
移住したい人 よびこみ 定住につながる
雇用 就きたい職場


③
高い
所得
全国平均3/5
40%非正規
農業→高齢化
4割以上が60才以上
仕事はあるが人あつまってこない
ミスマッチ
若者がはたらきたい職場
雇用の質
安定した はたらきやすい 雇用環境
ふさわしい処遇
「質」が確保された雇用
企業が求める人材
移住・定住を促す
論点
高倉さん
千葉から15年前
観光交流協会 事務局長
ホテル・レンタカー・・・・
求人がきても集まらない
人材不足
観光業 イメージよくない
20~30代がはたらかない
あいてる
移住者…イメージとのギャップ
大学の学部のあつまり
観光学部設置 専門学校
だいじょうぶ
ホテル
ホスピタリティ
おもしろい
伝われば


④
嶋山さん
八重山高校
琉球大学 工学部
石垣の仕事をさがした
技術職でさがした
将来もどってきたい
もどってきたい人がたくさん
もどりやすい
本島の大学を経験した
島を出てきたらもどることを決めて出る
本村さん
石垣出身 那覇在住
児童福祉 専門
結婚したとき
教育
八重山
中間的支援
支援のプロたりない
不登校
ひきこもり
就労支援も
発達しょうがい
利用者支援
どこに何があるか
支援につながるか
こどもに育て支援制度
臨床心理士
石垣の外に出ることは悪いことではない
相談所は40才までで中高年やってる
島のモデルでもなりたつモデルが必要では


⑤
観光
人材
子育て
事業所内たく児所
業界で支えられるか
喜納さん
移住⇒起業
WEB
結婚
石垣・宮古で12名
移住者
ゆっくりしたい
Iターンの方の子育て環境
東京で300時間残業 繁忙期
6~18時の間
辺銀さん
スーパーフレックス制
ノンストレス 女性職場づくり
スタッフ
1999 移住
2016 69%
いつきても いつ帰ってもよい
石垣40, 20代 1割
子育て環境 とてもよい
自然・芸術
進学・就職率100%
後しょうなん が出ていってしまう
残業多い
新人育てることが難しい
結婚より
地元 移住者
半ばくらい
1/4はつかの変化になる
お酒からみでつまずく人多い
出身の安波の介護などでやめざるをえない人も
IT分野は ない
雑談のつみかさねがある
福里さん
島生まれ
高校から本島へ
大学→留学
島のこと知らない
知りたい→南山舎へ
移住
3年のカベ
地元の人が心を開いてくれる
ネガティブな気持ちで戻ってしまうのはもったいない
「ひきもどされてきたのか」
ブックカフェ
ビギン
ゆめ山
ラーシャ
光業しやすい環境

⑥
石垣島に若者の関わりをつくる定住と働き場所について考える
雇用の質
島を出てもどってきた
結婚
時間
都市部から移住し
ゆとりを求めて
ニーズ
やりがい
石垣でしかできないこと
自然環境をいかした産業
自然
サンゴの多いしく
体験型の観光プログラム
水を売る
島やさい
観光
高付加価値
定住
いろんな人とふれあう キカイをつくる
伝える
コーチング
大学キャンパスのあつまり
地域のもつ
地域のたのしさ
自然環境
どこにでも飛んだせる人
濃密なコミュニティ
PTA
勇気がいる
ヘルスツーリズム
石垣にあう人とは?
東京の下町に同化する
ルポルタージュ
地元人 サンゴ キャンパス
移住者 物件さがし
食のやすい
自然
伝える
観光
高付加価値
定住
別の魅力

場所を選択しない
働き方
大学生をどう絡めるか
ライフターン(石垣市×琉大)
→観光分野 企画
雇用条件の改善
高等教育機関の誘致
地域特有事情
中縄と本土との型
言葉(ニュアンス?)の違い
ヘルスツーリズム
(人と人との関係を動かす)
観光地でも有効活用
IT(IOT)
環境面の整備
高齢者の生活
高年齢の建物
高齢年齢の住い
広がる

入場無料
どなたでも
参加できます

テーマ　**県内の島嶼地域の若者の定住と働き場所について考える**
-石垣島編

論点提供者　須藤 圭亮　氏（石垣市　企画部長）

「地域円卓会議」は、地域社会において多様な主体が連携することをめざし、テーマ（課題）を共有し、アイデアとネットワークを持ち寄る対話の場です。
企業・行政・地域・学識・メディア等、多様な見地を有するメンバーが一同に会し、提示された課題の解決をめざして議論します。
今回の地域円卓会議では、県内の島嶼地域と本島北部地域 5 カ所（大宜味村、国頭村(2/24)、久米島町(3/3)、石垣市(3/10)、宮古島市(3/11)）における若者の定住と働き方というテーマで議論します。

2016 年 3 月 10 日(木) 16:00-18:30 (受付開始：15:30～)

会　場　石垣市立図書館
沖縄県石垣市浜崎町 1 番地の 1

対　象　どなたでも参加できます。

参加申込方法　希望の方は、国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部まで、お名前・ご所属、ご連絡先（メールアドレス）を添えて、メール・FAX でお申し込みください。
e-mail：cocplus@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
TEL：098-895-8019、FAX：098-895-8185

■主　　催　国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学
■協　　力　公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく
■お問合せ　国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部（担当 安座間、大城、宮里 TEL.098-895-8019）

県内の島嶼地域と本島北部地域 5 カ所における若者の定住と働き方を考える　地域円卓会議　開催のご案内

今回の地域円卓会議では、県内の島嶼地域と本島北部地域 5 カ所における若者の定住と働き方というテーマで議論します。

円卓会議とは　「地域円卓会議」は、地域社会において多様な主体が連携することをめざし、テーマ（課題）を共有し、アイデアとネットワークを持ち寄る対話の場です。企業・行政・地域・学識・メディア等、多様な見地を有するメンバーが一同に会し、提示された課題の解決をめざして議論します。

テーマ　県内の島嶼地域の若者の定住と働き場所について考える -石垣島編

＜論点提供者＞**須藤 圭亮**　氏（石垣市　企画部長）

本事業は琉球大学・名桜大学が起点となり、大学が地域課題の共有と解決に向けて参画するという取り組みの一つとして開催されます。会議は、県内 5 カ所（国頭村・大宜味村・久米島・石垣島・宮古島）で開催され、会議で議論された課題の、地域ごとの共通点と独自性を認識し、地域内で共有することで、その課題を地域全体で解決に導くチーム作りを目指します。さらに他の地域との情報共有は、地域間連携のきっかけになることも期待されており、地域同士の連携を大学が寄り添うことで課題解決の相乗効果を上げたいと考えています。

■タイムテーブル（予定）

16:00　オープニング　～あいさつ～
16:05　地域円卓会議について
16:10　【論点提供】「県内の島嶼地域の若者の定住と働き場所について考える-石垣島編」
16:30　セッションⅠ（兼出席者紹介）
17:20　サブセッション（会場全体で意見交換）　兼 休憩
18:50　セッションⅡ
　　まとめ
18:30　終了予定

■着席者

・須藤 圭亮氏（石垣市　企画部長）
・高倉 大氏（石垣市観光交流協会 事務局長）
・喜納 正雄氏（株式会社ハブクリエイト代表取締役社長）
・辺銀 愛理氏（(有) ペンギン食堂）
・本村 真氏（琉球大学 法学部教授）
・福里 淳氏（南山舎株式会社 記者）
・崎山 奈美氏（琉球大学　工学部 4 年）

司会進行：平良 斗星氏（公益財団法人みらいファンド沖縄副理事長）
記録者：宮道 喜一氏（NPO 法人まちなか研究所わくわく事務局長）

●開催日時　2016年3月10日（木）16:00-18:30　（受付開始：15:30～）
●会　　場　石垣市立図書館（沖縄県石垣市浜崎町 1 番地の 1）
●対　　象　どなたでも参加できます。
●参 加 費　無料　　●定　　員　50 名

参加申込方法

参加費は無料です。どなたでも、この円卓会議を会場でお聞きいただくことができます。
ご希望の方は、国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部まで、お名前・ご所属、ご連絡先（メールアドレス）を添えて、メール・FAX でお申し込みください。

e-mail：cocplus@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

FAX：098-895-8185

■主　　催　国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学
■協　　力　公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく
■お問合せ　国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部
（担当 安座間、大城、宮里 TEL.098-895-8019）

参加申込書

所属＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　役職＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※ファックスでお申し込みの方はこちらの面をお送りください。